

## 「困ったときは おたがいさま・・・」

### さぼうと21について

【設 立】1979年に相馬雪香が「インドシナ難民を助ける会」(現・AAR Japan [認定NPO法人 難民を助ける会])設立。その国内事業を引き継いで1992年に「社会福祉法人さぼうと21」が設立された。難民をはじめ、中国帰国者や日系定住者等日本に定住する外国出身者の自立支援の活動を続けている。

【所 在 地】〒141-0021 東京都品川区上大崎2-12-2 ミズホビル 6階 [電話] 03-5449-1331  
[ホームページ] <http://support21.or.jp/> [メール] [info@support21.or.jp](mailto:info@support21.or.jp)

#### 【事業概要】 1 生活援助事業

- a. 生活支援プログラム：困窮度の高い学生が学業を継続できるよう、支援金を支給
- b. 学習支援室：ボランティアによる日本語やパソコン、学校教科などの学習支援

#### 2 相談事業（電話、E-mail、面談などによる相談を常時受け付ける）

#### 3 緊急支援事業、東日本大震災関連支援事業

- a. 緊急経済支援：緊急援助を必要とし、他から支援を受けられない方への経済的な支援
- b. 震災関連支援事業：姉妹団体のAAR Japanと協力して被災地の支援活動

### 学習支援室での活動内容

#### ■ ボランティアによる日本語学習支援、(教科)学習支援が行われています

毎週土曜日 午前10時から午後6時の間

登録学習者 100名あまり (小学生～70代・東京都23区内在住の難民等)

登録ボランティア 100名あまり (大学生～定年退職者・東京近郊在住者)

- 特定の教科書や教授法はなし。学習者の目標達成を目指して、固定・個別が基本の学習ペアが、コーディネーターと共に自分たちの学習内容を取り決め、学習に取り組んでいます
- 日本語、パソコン、学校教科(小学校～大学)、時には「マナー講座」や「ネイル試験対策」など、学習者の皆さんの自立や自己実現に必要と思われる科目はできる限り対応しています
- 現在進行中のクラブ活動など ⇒ ギタークラブ、カフェプロジェクト、山登り、お祭り参加 他



生活力向上ワークショップ!



ネイル試験前日の模擬練習



グローバルフェスタに皆で参加!

#### ■ より多くの方に多彩な学びの機会を提供できるよう、委託事業を実施しています

#### ■ 教室に来られない学習希望者のために、当団体が作成した教材(紙教材や動画教材)はホームページにて無料公開しています

「さぼうと21」教材バンク

検索



事業実施概要

事業名称	外国人住民・日本人住民 共育ち日本語教室展開事業 ～「安心・安全を基盤に、安定と成長に向かって！」を合言葉に～		
地域の課題	当会が主に支援する難民、とくに「条約難民」はミャンマー（ビルマ）出身者が大半を占め、新宿区をはじめとする東京都内に多く在住する。帰国の選択肢の限られる難民等にとって日本語学習の必要度は非常に高い。日本語学習の支援を通じて「生活基盤の安定」、「自立」「自己実現」につながる「学びの支援体制の構築」が大きな課題である。		
事業の目的	外国人住民と日本人住民が共に学び、共に社会の一員として成長できる日本語学習支援を展開していくこと。現場で有用な人材を育成し、必要とされる教材を無料提供すること。		
事業の概要	<b>日本語教育の実施</b>		
	名称	体験を通して学ぶ初級日本語講座	生活力向上のためのワークショップ
	目的	難民が日常生活で最低限必要な生活上の行為を日本語で行えるようになること	生活上必要な情報を知り、生活力向上のための知識を身につけること（通訳付き）
	対象	東京近郊在住の難民で、日本語でのコミュニケーションがほとんどできない人	東京近郊に在住する難民、ボランティア
	人数	19人	平均20人/回
	時間	5～8月 各2.5時間（全63回）計157.5時間 10～翌3月、各3時間（全20回）計60時間	5月～翌3月（全10回）計16時間
	内容	「人とかかわる」「社会の一員となる」等の項目をテーマとして、生活上の行為を共に体験しながら導入期の日本語教育を実施	「歯の健康」「わが家の教育費」「確定申告」等、生活していく上で知っておいてほしい事柄（「健康」、「生活知識」、「防災」）をテーマとして実施
	<b>日本語教育を行う人材の養成・研修の実施</b>		
	名称	パワーアップ研修「スキルアップ講座」	パワーアップ研修「理解を深める講座」
	目的	地域日本語教室の現場で求められる日本語学習支援のあり方を考え、日々の活動に生かしていくこと	「生活者としての外国人」について理解を深め、日々の実践に繋げていくこと
対象	地域日本語教室でボランティア活動経験のある人、または活動に関心がある人		
人数	26人	52人	
時間	10月～翌1月（全8回）計20時間	2月（全1回）計6時間	
内容	「読み教材」を知る、使う、創る」という流れで「読む」活動を学ぶ	「難民」についての理解を深めるため、専門家による「基礎講座」と難民当事者の「語り」で構成	
<b>日本語教育のための学習教材の作成</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>●名称：「にほんごも生活も一歩前進」 ●目的：日本語力も生活力も向上させること</li> <li>●対象：外国人住民（初級・初中級レベル）・外国人住民の日本語教育支援にあたる方</li> <li>●構成：「生活力向上応援BOOK“知っておきたいシリーズ”」他</li> <li>●使い方：外国人住民向けの生活関連講座での利用や、自身の関心や必要に応じて自習教材として使用</li> </ul>			
成果と課題	<p>【日本語教室】：ワークショップは、様々な分野の専門家と連携し、外国人住民のニーズに合った内容を実施できた。今後は他の言語（平成27年度はビルマ語のみ）での実施も検討していきたい。</p> <p>【人材養成】：「スキルアップ講座」では地域日本語教室の現場で取り入れやすい実践的な内容を取り上げ、好評だった。また「理解を深める講座」では、当事者の声を参加者に届けることができた。今後は、外国人住民の発信を外国人住民が聞くことのできる機会を設けていきたい。</p> <p>【教材作成】：「やさしい日本語」と「生活」をベースに、自習教材や学習支援の際の教材として利用しやすい構成の教材となった。シリーズ化し、充実させていきたい。</p>		
発表者から一言	平成27年度事業では、ここ数年取り組みを続けてきた「生活力向上のためのワークショップ」を引き続き実施し、これまで講座で利用してきた資料に解説を加え「教材」として完成させました。専門家との連携により誕生した「生活力向上応援BOOK」をぜひ見にいらしてください！		